

## 平成 29 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 29 年 10 月 9 日（月・祝）

開会：午後 1 時 00 分 閉会：午後 2 時 00 分

場所：笹尾東 3 丁目集会所

参加者：男 4 人、女 0 人 計 4 人（うち職員 0 人）

町職員：町長、副町長、建設部参事、上下水道課長、政策課員

### ○懇談

男性 1 農業の担い手はどんな人になりますか。

建設部参事 ブルーベリー、ブドウについては、若者の農業者、担い手さんの息子なんですが、その方を中心に取り組むということが決まりました。

男性 1 農地を持っている方の息子さんということですか。

建設部参事 長深の方ではないですが、神田地区、山田に農地を持つ方の息子さんになります。その方と息のあった若手を中心にやっていきます。

副町長 ネオポリスの方でリタイアされた方で、農業にたずさわってみたいという方はみえないでしょうか。

男性 2 ふれあい農園がありますよね。家庭菜園ならやりますけど本格的となるとどうなのかな。

町長 ネオポリスの方でリタイアしている方ですが、この話に興味をもたれた方もみえました。そこで、農業をやったことない方でも充分できますという話をしました。ある人がいわれるには、農業にプロはいないと。例えば米を作ってきたといっても、50 年やってきたとしても、50 回しか収穫していない。ということは、世界中にプロの農業者はいないと。それからいくと、誰でも農業はできるんです。実際、米だと 1 反当たり 8 俵くらいとれますが、年間でよくても 10 万円しか稼いでいない。今東員町では、3 億数千万円しか稼いでいないです。ところが、津のほうにトマト工場がありますが、2ha くらいのハウスでトマトが 1 反当たり 1,500 万なんです。二桁も違います。2ha で 3 億くらい稼げるんです。東員町は 700ha で 3 億しか稼げていない。これでは農業として成り立たない。少なくとも一桁あげて、1 反当たり、100 万くらい稼ぐようにならないと農業では生きていけないし、産業にもならないです。

我々は農業を東員町の産業にしたいんです。

男性 1 今ブルーベリーを作られている組織といますか、体制はどのような形なんですか。

建設部参事 今まで東員町では果樹がなかったので、3年前から東員町が主体で指導いただく先生を雇いまして、実証ほ場を作っています。今年3年目でやっと収穫ができました。これを若手の農業者に引き継いでいきたい。実証で得た記録と、引き続き指導もいただいて、もう少し拡大できるような面積を広げて、東員町のブルーベリー、ブドウをブランド化していこうと、取り組んでいるとこととでございます。

男性 1 それをやる若い人は、個人の収入になるんですか。

建設部参事 当然収入として儲けていただく。我々が目指しているのが、若い農業者たちに儲けてもらって、東員町のほかの若い人たちに、農業っていいよね、農業って儲かるんだ、地元で農地があり、十分暮らせるよね、それでいてかっこいい生活をしているという意識を持ってもらうのが目的なんです。これをするによって、農業の後継者も出てきますし、わざわざ東員町外で働かなくても町内の農地で稼げます。農業で町おこしをするということは、退職された方や子育てが終わった方が、遠くへ行かなくても町内で仕事ができることが、最終的な狙いになります。そこまでいくには時間がかかりますが、とりあえずは5年計画で、そういったものを目指して頑張っていきます。

男性 2 農業は土づくりだと思います。土と水ですね。その辺も平行して考えてもらえるとは思いますが、どうでしょうか。

建設部参事 確かに土づくりは大事ですが、今、工業化、産業化されている農地はあまり土づくりは関係ないです。といいますのは、ポット栽培といたしまして、農地とはあまり関係ないような作り方をしています。ただ水田農業については、化学肥料がかなり使われています。最近色々なところで、土地利用型の農業をされている先生方の話を聞くと、化学肥料はだめだということをおっしゃいます。昔の自然農法に戻さないと本当に美味しいものは作れないといわれています。町でも大豆や水田でもそういった形の実証ほ場を入れながら変えていこうとは思っていますが、施設については、あまり土にこだわる必要はないのかなというところなんです。ただ、ブドウについては、苗を植えて1年2年かかりますので、土づくりにも先生方の指導をいただきながら、取り組んでいます。

町長 今は、イチゴやトマトとかは、コンクリートの上でやっています。要するに工場なんです。野菜でも、何段階に積んで光を当てて栽培するとか、野菜工場、果物工場になっています。施設ですので天候に左右されずに管理できるので、経営が安定します。ただ、700haの農地はそればかりではないので、そこは土づくりも当然必要になって

きます。化学肥料をできるだけ使わない農業に変えていきながら、生産性を上げることが大事になります。品種としても米ばかりを作るのではなく、大豆を作ります。大豆もみんなと同じことをやっても付加価値がないので、東員町はこういう大豆を作ろう、付加価値の高い大豆を作ろうと、儲かる農業をしようということで進めています。

男性 2 大豆も転作の補助金のためですからね。

建設部参事 まさしくそのとおりなんです。いま国がやっている農業施策は、補助金をばらまくだけでほったらかしです。これでは農業はかならず衰退します。魅力がないんです。そこを変えていかなければと思っています。

副町長 この補助金もいつまで続くかという、今の国の情勢からいくと続かないだろうと思います。補助金がなくなれば誰も作らなくなります。耕作放棄地が増えていきます。その前に何とか手を打っていかねばと考えています。

男性 3 水道は設備の更新ということですが、水道管は大丈夫ですか。

上下水道課長 今 10 年間の更新計画を作っていますが、後半の方に水道管の更新も行っていきます。すでに入れ替えて新しい管もありますが、笹尾地区は初期に敷設した管がたくさんありますので、次の 10 年計画の中とかでも更新をしていきます。

男性 3 それまでは持つわけですか。

上下水道課長 ほとんどダクタイル鋳鉄管というものが入っていますが、法定対応年数でいくと 50 年くらいですが、現実はその 1.5 倍くらいの耐久性は十分あります。今も漏水の調査等で管の状況をみていますが、十分耐えられるものですのでその辺は大丈夫です。

男性 3 値上げは 17%以上なんですよ。

上下水道課長 使われる量によって違うので、17%を超えて上がる方もありますし、そうでない方もみえるかもしれません。もう一度一から料金表を作り直します。

町長 おそらく 20%上がったところで、2,000 円までいかないと思います。今三重県は 2,000 円より下のところはないんです。

上下水道課長 いま東員町の料金水準は一般家庭、使用量月 20 m<sup>3</sup>で 1,674 円です。単純に 17 掛けても 1,958 円です。三重県で 2 番目に安いのが桑名ですが、桑名はこの 7 月で 2,434 円に改定されました。東員町は料金を上げたとしても 2,000 円以下です。料

金水準だけで比べていくと、まだ三重県でトップです。

町長

東員町は40年料金を変えていませんから、40年前の料金を今払っていただいているんです。全国的にみても安い水道料金ですから、できるだけ安く抑えようとは思っています。

・懇談による意見

1. 新しい農業の担い手について
2. 農地の土づくりについて
3. 水道管の更新と水道料金の値上げについて